

第2章 農業の概況

1. 食用作物生産状況

「八」国は、FAOによって食糧不足国として認定されている。

対象作物（コメ、トウモロコシ、ヤムイモ、サツマイモ、インゲン豆、プランタン）の需給状況を表2-1に示す。

表2-1 主要食物需給状況

作物名 年度	期首在庫 (千t)(A)	生産量 (千t)(B)	輸入量 (千t)(C)	国内消費量 (千t)(D)	輸出量 (千t)(E)	自給率(%) (B)÷(D)
コメ(白米)						
1995	0	67	207	250	0	27%
1996	15	80	174	260	0	31%
1997	0	107	194	290	0	37%
1998	0	68	195	254	0	27%
1999	0	67	231	288	0	23%
トウモロコシ						
1995	0	220	40	207	0	106%
1996	30	204	40	227	0	90%
1997	0	230	10	228	0	101%
1998	40	206	6	240	0	86%
1999	0	250	6	244	0	102%
ヤムイモ						
1995	0	220	0	176	0	125%
1996	0	230	0	184	0	125%
1997	0	240	0	192	0	125%
1998	0	193	0	154	0	125%
1999	0	195	0	156	0	125%
サツマイモ						
1995	0	185	0	148	0	125%
1996	0	183	0	147	0	124%
1997	0	160	0	128	0	125%
1998	0	170	0	136	0	125%
1999	0	172	0	138	0	125%
インゲン豆						
1995	0	30	49,000	74	0	41%
1996	0	49	15,000	60	0	82%
1997	0	50	19,000	64	0	78%
1998	0	35	25,000	56	0	63%
1999	0	36	35,000	66	0	55%
プランタン						
1995	0	235	0	176	0	134%
1996	0	239	0	179	0	134%
1997	0	250	0	188	0	133%
1998	0	288	0	216	0	133%
1999	0	290	0	218	0	133%

(出典: FAOSTAT)

対象作物のうち、コメ及びインゲン豆は主食であるにもかかわらず、自給率が非常に低い。また、トウモロコシもほぼ国内需要を満たしているものの、実態としては輸入に依存している面が大きく自給を達成しているとは言い難い状況にある。特にコメについては、1994年にアリスティッド政権が自由貿易策を講じ、関税を引き下げて以来、アメリカから安い輸入米が大量に流れ込み、国産米を圧迫しているとも言われている。「八」国政府は、国民が安くコメを入手できるよう市場価格の

抑制を目的とした貿易の自由化を継続する方針である一方、国産米が低価格の輸入米に対抗できるよう生産性向上を図る観点から、資機材調達のために財政支援を促進することが重要であると考えており、その意味でも本プログラムによる肥料の調達は重要な意味を持つ。

ヤムイモ、サツマイモ及びプランタンは国内需要を満たしてはいるものの、ハリケーン等の自然災害、高い人口増加率（1990 - 1998年平均2.4%²）等に耐えうる生産能力はない。

一日一人あたりのカロリー摂取量も1,869kcalであり「ハ」国で最低限必要とされる2,250kcalに達しておらず、全体的に食糧が不足しているものと思われる。

したがって、「ハ」国における食糧事情の改善は、まず不足しているカロリー摂取の向上が第一に考えられるべきであり、そのためには穀類全体の増産を図る必要があり、本プログラムの対象作物は妥当と思われる。

2．農業資機材の生産、輸出入統計

鋤や輸送用荷車が少量製造されているものの、肥料、農薬、農機は製造されていない。表2 - 2に農業資機材の輸入状況を示す。

「ハ」国における肥料輸入・販売会社は、Agri-Supply, Agrotechnique, Reinbold Import-Export 等数社ある。主に、アメリカ、カナダ、ヨーロッパ、メキシコ、アンティグア・バーブーダ、セントルシア、ガイアナ、スリナム、トリニダード・トバゴ等から輸入している。年間輸入額は過去5カ年の平均で75万US\$ / 年と一定であるが、肥料輸入量はその年の国際価格の動向によって増減する。

我が国の食糧増産援助で調達される肥料は、市場の約60%を占めている。「ハ」国政府は我が国の食糧増産援助で調達された肥料を農民の購買力を考慮した価格で販売しており、肥料の普及を目指している。しかし、1999年の需要は年間43,000トンといわれていたものの、我が国の援助を含めた流通量は必要量の約60%しか満たしておらず、肥料不足は続いている。「ハ」国における肥料の必要性は非常に高く、調達品目として妥当であると思われる。

農薬は、過去5年間毎年150万US\$相当が輸入されており、民間の販売店で購入できる。病虫害予防と種子消毒のために約60種類の農薬が導入されており、散布機、マスク、手袋の販売も同時に行っている。本プログラムにおいては、農薬の要請はない。

農機は、過去5年間毎年約190万US\$相当が輸入されており、原産国は台湾、ブラジル及び近隣諸国の場合が多い。歩行トラクターは一般的な主要作物栽培農家にとっては非常に高価であり、高収入を得ている農家がローンで購入している。本プログラムにおいては、農機の要請はない。

²World Bank Atlas 2000

表2 - 2 農業資機材の輸入状況

	1999				1998				1997				1996				1995				
	民間		2KR*	2KRが市場に占める割合(数量)	民間		2KR	2KRが市場に占める割合(数量)	民間		2KR	2KRが市場に占める割合(数量)	民間		2KR	2KRが市場に占める割合(数量)	民間		2KR	2KRが市場に占める割合(数量)	
	輸入額(1,000US\$)	数量(台/t)	数量(台/t)		輸入額(1,000US\$)	数量(台/t)	数量(台/t)		輸入額(1,000US\$)	数量(台/t)	数量(台/t)		輸入額(1,000US\$)	数量(台/t)	数量(台/t)		輸入額(1,000US\$)	数量(台/t)	数量(台/t)		
肥料	窒素肥料	300	5,113	5,727	53%	300	6,965	9,870	59%	300	7,341	5,461.6	43%	300	4,000	6,579	62%	300	5,400	8058.3	60%
	リン酸肥料	100	2,113	10,029	83%	100	1,640	8,448	84%	100	2,654	7,731	74%	100	2,000	2,570	56%	100	1,000	3260	77%
	カリ肥料	100	1,849	0	0%	100	2,777	0	0%	100	2,736	0	0%	100	1,000	1,360	58%	100	1,000	1700	63%
	その他	250	-	0	0%	250	-	0	0%	250	-	0	0%	250	-	0	0%		-	0	0%
	小計	750	-	15,756	-	750	-	18,318	-	750	-	13,193	-	750	-	0	0%		-	0	0%
農薬	殺虫剤	1,500	-	0	0%	1,500	-	0	0%	1,500	-	0	0%	1,500	-	0	0%	1,500	-	0	0%
	小計	1,500	-	0	0%	1,500	-	0	0%	1,500	-	0	0%	1,500	-	0	0%	1,500	-	0	0%
農機	歩行用トラクター	200	-	0	0%	200	-	0	0%	200	-	0	0%	200	-	0	0%	200		0	0%
	トラクター	1,600	110	0	0%	1,600	110	116	51%	1,600	110	0	0%	1,600	110	50	31%	1,600	110	0	0%
	コンバイン	100	-	0	0%	100	-	0	0%	100	-	0	0%	100	-	0	0%	100	-	0	0%
	搾乳機	10	-	0	0%	10	-	0	0%	7	-	0	0%	7	-	0	0%	7	-	0	0%
	その他	50	-	0	0%	50	-	一式	-	50	-	0	0%	50	一式	-	-	50	一式	-	-
	小計	1,960	-	0	0%	1,960	-	-	-	1,957	-	0	0%	1,957	-	-	-	1,957	-	-	-
総計	4,210	/	/	/	4,210	/	/	/	4,207	/	/	/	4,207	/	/	-	4,207	/	/	/	

(出典：FAOSTAT)

3. 国際収支バランスと2KRとの関係

「八」国は、重債務貧困国³に認定されており、1998年において、対外債務残高は10.475億ドル⁴に達している。表2-3に過去5カ年の国際収支状況を示す。

表2-3 「八」国 国際収支状況（1994～1998年）

(単位：百万US\$)

項目	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年
経常収支	-23.4	-87.0	-137.7	-47.7	-38.1
貿易・サービス収支	-168.4	-609.3	-590.3	-512.0	-542.0
貿易収支	-111.2	-428.9	-416.1	-354.2	-341.4
輸出	60.3	88.3	82.5	205.4	299.3
輸入	-171.5	-517.2	-498.6	-559.6	-640.7
サービス収支	-57.2	-180.4	-174.2	-157.8	-200.6
所得収支	-11.2	-30.6	-9.9	-13.6	-11.7
経常移転収支	156.2	552.9	462.5	477.9	515.6
資本収支	-15.8	99.3	67.9	61.5	193.1
投資収支	-5.5	-3.8	-0.5	25.6	97.6
直接投資	0.0	7.4	4.1	4.0	10.8
証券投資	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他投資	-5.5	-11.2	-4.6	21.6	86.8
その他資本投資	-10.3	103.1	68.4	35.9	95.5
総合収支	-39.2	12.3	-69.8	13.8	155.0
金融勘定	39.2	-12.2	69.8	-13.8	-155.0
外貨準備増減	49.7	-137.1	50.4	-29.8	-34.5
誤差脱漏	-10.5	124.9	19.4	16.0	-120.5

(出典：INTERNATIONAL FINANCIAL STATISTICS JUNE 2001)

1995年は軍事政権が終幕し、国際社会による経済制裁が解かれた年であり、政治経済上大きな変化があった。アリスティッド民主政権は、関税を引き下げ、貿易の自由化政策を推進したため、輸入品が大量に国内に流れ込み、貿易・サービス収支は大幅な赤字となった。同時に、観光分野における海外企業の投資が回復し、資本収支は黒字に転じた。また、各国機関の援助も再開し、経常移転収支も大幅に増加している。一方、国内産業の発展はみられず、所得収支は赤字であり、今後の貧困削減・経済発展を考える上で、対策が待たれるところである。

表2-4に外貨準備高の推移を示す。

³ HIPC: Heavy Indebted Poor Countries 1993年時点で1人当たりGNPが695ドル以下で、債務総額が輸出年額の2.2倍以上、もしくはGNPの80%以上に相当する国。41カ国ある。

⁴ 出典：我が国の政府開発援助 下巻（国別援助）2000年

表2 - 4 外貨準備高推移

(単位：百万US\$)

	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
外貨準備高	216	265	293	329	290
1.外貨	159	209	237	279	241
2.IMFリザーブポジション	0	0	0	0	0
3.SDR	0	0	1	1	0
4.金	7	6	6	0	0
(重量 百万トロイオンス)	0.019	0.02	0.02	0.001	0.001
5.その他外貨準備	49	50	50	49	49
外貨負債	81	103	98	111	100
負債分除く外貨準備高	135	162	195	218	190

(出典：Haiti Selected Issued)

外貨準備高は、ドル化が進んでいる国であるにもかかわらず、負債分を除くと輸入の3～4ヶ月分であり、決して多いとはいえない。加えて、図2 - 1に示すとおり近年ドル高傾向にあり、輸入に依存している「ハ」国民の生活を脅かしている。消費者物価指数も図2 - 2に示すとおり2000年は対1995年比で200%であり、インフレが進んでいる。

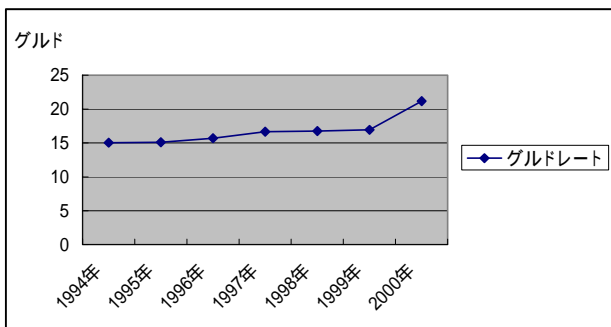


図2 - 1 対米ドル為替レート推移

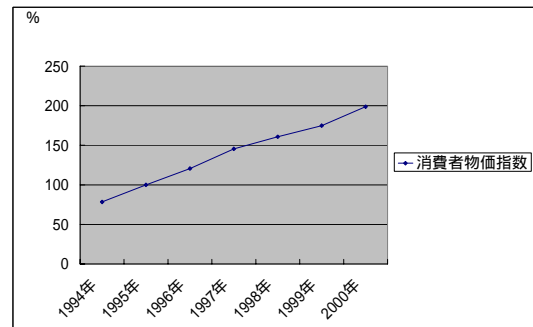


図2 - 2 消費者物価指数推移

(出典：INTERNATIONAL FINANCIAL STATISTICS JUNE 2001) (出典：INTERNATIONAL FINANCIAL STATISTICS JUNE 2001)

上述のとおり、「ハ」国は国内産業の不振及び外貨不足に悩んでいる。主要な国内産業の一つである農業の促進及び外貨支援的側面から、我が国の食糧増産援助は、重要な役割を担っているものと思われる。